

『生命保険の数学』（第1版第1刷）正誤表（2015/4/10版）

※本書では「収支相当」と表記されている箇所が複数ありますが、これらはすべて「収支相等」が正しい表記となります。また「収支が相当」も「収支が相等」となります。

訂正箇所		誤	正
p7	3行	契約を解約した場合に、まとめて払い込んでいる	契約が解約などで消滅した場合、払い込んでいる
p9	3行	ほぼ確実に払われる額と考えても	ほとんどの場合に払われるものと考えて
p18	25行	契約者は保険料払込期間中に生存している限り、	契約者は保険料払込期間中に被保険者が生存している限り、
p56	8行	「年金」という言葉が表面に現れるのは、例えば、死亡保険金や生存保険金に相当する額を年金として分割して保険会社が契約者側に払う場合などです。	生命保険契約上、「年金」という言葉が表に現れるのは、例えば、個人年金保険や収入保障保険において保険会社が契約者側へ年金を払う場合などです。
p71	21行	現価の合計は存在します。	金額の合計は存在します。
p77	7行	一般に $i > 0$ のとき、	一般に $i > 0$ または $qx > 0$ のとき、
p136	25行	契約内容(2)に対する現価であり、	契約内容(2)～(2)に対する現価であり、
p139 図 4.14		年金開始前の経過 t 年で死亡すると	年金開始前の t 年目に死亡すると
		年金開始までに生存すると	年金開始年齢まで生存すると
		年金が払われる	年金が払われ始める
p144	21行	契約内容(2)の年金後の	(2)の年金開始後の
p150	2行	この額の平均	払われる額の平均
	8行	この額の平均	払われる額の平均
	16行	この額の平均	払われる額の平均
p166	12行	大きくなっています。	大きくなっていきます。
p181	11行	3,000 万円超	3,000 万円以上
	13行	5,000 万円超	5,000 万円以上
p192	10行	年払の方が小さく、	年払の場合にはおなじため、
p206	21行	(保険料払込直後)	(保険料払込の後)
p208	5行	経過 t 年(保険料払込直前)における	経過 t 年における
p210 図 6.5		$t = n$	$t = m$
p211	13行	契約時の年齢を x 歳、保険期間を n 年、分割払での	契約時の年齢を x 歳、分割払での
	16行	(保険料払込直後)	(保険料払込の後)
p212	19行	経過 t 年(保険料払込直前)における	経過 t 年における
p216	22行	(保険料払込直後)	(保険料払込の後)
p218	14行	経過 t 年(保険料払込直前)における	経過 t 年における
p234	8行	(1) 一時純保険料などに関する再帰式	(1) 一時払純保険料などに関する再帰式
p247 表 7.1		$\beta = 0.03, \xi = 0.04, \gamma = 0.0024,$	$\beta = 0.03, \gamma = 0.0024,$
p252 表 7.3		$\beta = 0.03, \xi = 0.04, \gamma = 0.0024,$	$\beta = 0.03, \gamma = 0.0024,$
p253 表 7.4		$\beta = 0.03, \xi = 0.04, \gamma = 0.0024,$	$\beta = 0.03, \gamma = 0.0024,$
p272	13行	保障内容、保険金額、	支払事由、保険金額、
p278 図 8.4		V_k	V^k
p290	12行	$V^0 =$	$V^t =$
p322	13行	営業保険料方式	営業保険料式
p323	1行	調整純保険料方式	調整純保険料式
p323	10行	純保険料方式	純保険料式
	14行	特別有料割引	特別優良割引
	18～19行	"生前給付型保険…151 生存給付型保険…15"	生前給付型保険…15,151
p324	3行	保健期間	保険期間

なお第1版第2刷では、上記以外にも、一部について表現を変更している箇所があります。